

## 湖南省の特色ある教育施策について

平成26年4月10日

湖南省長 谷畑 英吾

### (1) 学校と地域の連携 ～地域と協働し、開かれた学校づくりを～

近年、地域や家庭における教育力の低下が叫ばれている中、「地域の子どもは地域で育てる」との理念により、子どもたちを地域ぐるみであたたかく見守り育む教育、地域に開かれた学校づくりを推進。

#### ① コミュニティスクールや学校支援地域本部事業の推進

- ・学校と地域が協働して学校運営を行うコミュニティスクール（岩根小学校は県内初）を推進。平成28年度までに、さらに5つの小中学校が指定予定。教委と学校が連携しつつ、各学校が地域に丁寧呼びかけながら推進。
- ・全小学校に学校支援地域本部を設置済、全中学校に学校支援地域本部の導入を推進（今年度中に全4中学校中、3校に設置予定）

#### ② 学校教育きらめきサポーター事業

- ・学校教育を支援する輪を広げるため、学校への寄付や支援を行う企業を「きらめきサポーター」として認証し、広報誌や教委HP等で企業名等周知してPR。

#### ③ 地域と連携した子どもの体験活動の推進

- ・ロータリークラブと市教委共催による、姉妹都市である鳥取県北栄町との子ども交流事業の推進。
- ・まちづくり協議会等と連携し、地域から学校に寄付された「かまどベンチ」等を活用した防災キャンプ事業の推進。

### (2) インクルーシブ教育の推進 ～一人一人のための特別支援教育を～

「この子らを世の光に」とする糸賀一雄氏の理念を受け継ぎ、一人一人の子どもに応じた特別支援教育を、福祉部局としっかりと連携しながら推進。

- ① 教育と福祉が連携し、きめ細かに子どもたちの状況を把握しながら、就学前から就労までを支援する「発達支援システム」の取組を推進。
- ② 個々の子どもたちの障がいの状況にきめ細かく応じて、配慮を行う教育「インクルーシブ教育」を、文科省指定事業を受け、モデル的に推進。

### (3) いじめ対策など児童生徒支援 ～きめ細かに子どもたちを見守る教育を～

いじめ対策については、「タテ（教員と子ども）」「ヨコ（子ども同士）」「ナナメ（子どもと地域）」から子どもたちをきめ細かに見守り、子ども自ら考える取組を実施。市長は教育長との情報共有・連携を密にするとともに、必要な人的・財政的支援を行うことで、教育委員会や学校を全面的にサポート。

- ① 市独自施策として、各中学校に「子ども見守り支援員」（教育経験者）を配置。（平成26年度～）
- ② 子どもたち自身がワークショップ形式で、いじめについて考える「湖南省いじめをなくそうサミット」を毎年開催。（今年度で4回目）
- ③ 家庭に起因する問題によって、学校生活に困難さを抱える子どもたちへ福祉の観点から子どもや家庭に、より深くきめ細かな支援を行うため、正規職員の社会福祉士を学校教育課に配置。（平成26年度～）
- ④ 子どもの人権や学校における危機管理を専門とする顧問弁護士を教育委員会に配置し、法的な側面から子どもや学校を支援。

### (4) 特色ある学校づくり ～学校の前向きな教育力を引き出す教育を～

学校や教員が持つ様々なアイデアを活かし、学校の前向きな教育力を引き出すとともに、学校長のリーダーシップ発揮を支援。

#### ・きらめき学校づくり事業

1校10万円を目安に取組内容を申請し、教育委員会（議）で審査の上、内容に応じて傾斜配分。若手教員がアイデアを議論し合う場面や、各学校の取組がマスコミで取り上げられる機会も多く、学校の活性化につながっている。

### (5) 教員の資質向上 ～幅広い視野を持つ若手・中堅教員の育成を～

- ① 東京学芸大学と教育連携協定を結び、若手・中堅教員を20名程度、研修派遣し全国的な研究発表大会へ参加させたり、学芸大の持つ人的・物的資源を活かしたオリジナル研修を実施。（平成26年度～）
- ② きょういくげんき塾（応援団長：市長、副団長：教育長）

有志のベテラン・若手・中堅教員が集まり、毎回自由なテーマで議論。ベテラン教員の若手・中堅教員への教育理念やより良い指導方法の伝承につながっている。